

そうじの力だより

VOL.174



支援事例紹介

常に見直し修正するから、良い状態が維持できる
〜たゆまぬ努力が、進化発展の源〜

香川県を本拠とし、県の内外に十一店舗を展開するホームセンター、西村ジョイ。地元では知らぬ人はいない、人気のホームセンターです。

私が同社のお手伝いを始めてから、ちょうど六年になります。現在、二、三か月に一回、同社を訪問し、各店の店長ある

いはリーダー社員を集めて、環境整備についての研修会を行っています。



研修では毎回必ず実習を行う

毎回の店舗を持ち回りで行います。今回の担当店舗は、久しぶりに高松市の成合店。同社屈指の規模を誇る、旗艦店です。

成合店の特徴はなんといっても、「倉庫在庫ゼロ化」。一般的に小売店では、バックヤードの倉庫に在庫を積んでいきます。それをやめて、すべての在庫を店頭に出してしまおう、というのが、「倉庫在庫ゼロ化」です。

というのも、バックヤードの倉庫に在庫を積んでおくと、往々にして長期在庫や不良在庫になってしまうこと。そして、商品確認のために、いちいち倉庫に移動しては、ロスが生じる、ということから、このような施策を取るようになったものです。

ところがこの「倉庫在庫ゼロ化」、言うは易く行は難き、とんでもないチャレンジなのです。

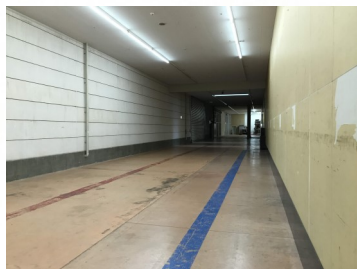
今日、ホームセンターは、およそ生鮮食料品以外、何でも売っているというくらい、取り扱いの商品が多く、日々、膨大な物量のモノが入り込んでいます。その中で、倉庫を空っぽにさせることは、とてつもなく難しいこと。

この難事業を、早い段階でクリアしたのが、この成合店なのです。

ですから今回の研修会でも、私も含めて参加者の大きな関心は、成合店の倉庫がどのようになっているか、ということでした。

結論から言うと、倉庫在庫ゼロ化は、みごとに維持されていました。

ただ広い倉庫に、何にもないので、すー実に壮観です。



みごとな倉庫在庫ゼロ

しかし、店長さんが正直にコメントしてくれたところでは、実は、少し前までは、必ずしも「ゼロ」ではなかったそうです。イベントのために大量搬入された商品や、季節ものの売れ残った商品などが、それなりに積み重ねられて

た、とのこと。

でもそれを、店長が各マネージャーや担当者へ声かけをして、ゼロに持っていきようとした、ということでした。

一度ある基準に達したら、その後は放っておいてもそれが維持される、なんてことはありません。常に見直し、手を入れることで、はじめてそれが可能になるのです。

同じことが、工作室にも言えます。

お客様が購入した木材などを、好みの長さにカットする工作室。活動を開始した当初は、工具や木片、オガクズなどが室内に散乱し、ひどい状態でした。



整った状態が維持されている工作室

その後、取り組みを進める中で、工具は整理整頓され、日々発生するオガクズも、キレイに清掃されるようになりました。

今回の研修でも、この工作室を視察しましたが、やはり、キレイで整った状態が保たれています。

しかし、担当者に聞いたところ、これを維持するために、相当の努力をしているようです。チェックリストに従って

チェックすることはもちろんのこと、工作室で実際に作業をするパート・アルバイト社員ともこまめにコミュニケーションを取りながら、彼らが整理、整頓、清掃に取り組むよう、後押ししていったそうです。

一方で、これまでにない工夫改善も見られました。

たとえば、フォークリフトの定位置化。これまでフォークリフトには決まった駐車位置がなく、使ったらそのへんに適当に停めていたのですが、それをきちんと定位置化しました。



フォークリフトの定位置化の工夫

これによって、迷うことなくフォークリフトにアクセスできるようになったと同時に、売り場が常に整った状態になった、と言えます。

同社のように、ある程度のレベルになったとしても、そこで安心して活動がゆるむのではなく、常に見直し、手を入れていく。

そうした気風が、おそらく業務そのものにも生きて、常に新しく刺激的な「西村ジョイ」が維持されているのでしょう。
(小早)

小早祥一郎の著書『そうじ』を見ると、なぜ会社がよくなるのか『好評発売中！』ご購入は、お近くの書店またはネット通販でどうぞ。



「整理」の本当の意味

「整理」の本当の意味
〜不要なモノを捨てることとは、本当に必要なものを見極めること〜

そうじのイロハのイは「整理」、つまり、不要なモノを捨てることです。

私は支援先の現場で、整理のシーンに立ち会い、アドバイスすることがしょっちゅうあります。

でも多くの場合、みなさん、なかなかモノが捨てられません。私の目から見ると、これは明らかに要らないだろうと思えるモノでも、「これは要る」と取っておく人が多いのです。

ひとつの原因は、「もつたいない」という気持ち。我われ日本人は、古来からモノを大切に暮らしてきました。そのDNAが、今も残っているようです。

ただ、それだけではない、ということが分かってきました。

整理の現場で、「要らないモノを捨てて、要るモノだけにしましょう」と言うのと、何でもかんでも取っておく人がいます。「要る」「要らない」は主観なので、本人が「要る」と思えば、それは要るモノになってしまうのです。

なので、そんなとき私は、「ここ一年間に使ったものだけにしましょう」と、問いかけを変えることにしています。

すると、使ったかどうかは客観的に判断できますので、主観を排して、使っていないものを捨てることのできるのです。

ところが、人によっては、「これも使った」「あれも使った」といつて、いつこうにモノが減りません。たとえば、同じ黒のボールペンが五本あるのですが、その五本とも使った、ということです。三本あるハサミも、全

部使った、といえます。かといって、用途によつて使い分けているということでもなく、何となく、あるものを適当に使っている、ということのようです。

そこで私は、奥の手として、「これがなければ仕事ができない、というものだけにしましょう」と言い換えます。そうすると、ようやく、黒のボールペンは一本、ハサミも一つに減らすことができるのです。

こんなプロセスを経ながら、私が感じたのは、「自分にとって、本当に大切なものは何なのか」が分からない人が多いのではないか、ということでした。

だから、あふれるばかりのモノに囲まれていても、「これも要る」「あれも要る」となってしまう。どれか一つに絞れ、と言っても、絞れない。

これは、モノに限らず、コトについても共通することです。

私たちは、日々、多くの雑事に忙殺されています。「あれもやらねば」「これもやらねば」と、息つく暇がありません。

でも、ふと冷静になって、「自分にとつて、これをしなければ人生が成り立たない」というものって何だっけ？と振り返ってみると、そう多くない、ということに気づくかもしれません。

本当に大切なものを見極めて、それに自分の持てる資源を集中投入することで、これまでよりも楽に、高いパフォーマンスを発揮できることでしょう。

だから、モノの整理をすることで、心が研ぎ澄まされていくのです。(小早)

編集後記

やっぱり「裏」が大事

歯の検診を定期的に受けています。先日の検診で、「磨き残し」検査をしたのですが、歯科衛生士さんから、「裏が磨けていませんよ」と言われ、「ほら」と鏡で見せられました。

私はいつも支援先で、「見えない部分をしっかりとそうじしましょう」とアドバイスしているのですが、自分の歯の裏側のそうじが不十分でした(笑)

平成31年=令和元年、お世話になり、ありがとうございました。令和2年も、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。(小早)



飛鳥のつばやき

ひとりのできるもん

2歳半を迎える息子。ここにきて「じぶんで！」ブーム到来です。

自立に不可欠な「見守る」「忍耐」ですが、実践するのは、ほんつつつと大変ですね…！(泣)。でも、もうすぐ「お兄ちゃん」になるので、今が母の踏ん張り所です。

ということで、1月より第二子出産に向け、産休に入ります。メールの返信が遅くなる等、ご迷惑をおかけするかと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。

2020年、素晴らしい年になりますように！ (大槻)



株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨く、
日本で唯一の研修会社

弊社は「そうじ=環境整備」を通じ

た「企業風土改革」を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場検証を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を原則としますが、状況とご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)